

井古・桜山・奈良
墳古・山白・茶奈

国内最多銅鏡81枚確認

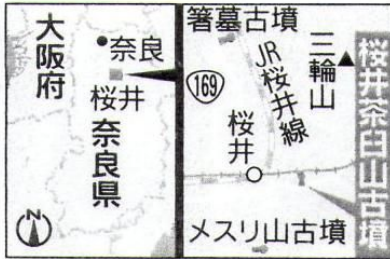
ヤマト政権大王墓 巨大権力示す

奈良県桜井市の前方後円墳、桜井茶臼山古墳(全長約200メートル、3世紀末〜4世紀初め)に副葬された銅鏡が81枚に上ることが分かった。7日、県立橿原考古学研究所が発表した。13種類あり、枚数、種類ともに国内最多。

卑弥呼が中国・魏から鏡をもたらした年とされる「正始元年」(240年)の銘文が入った三角縁神獸鏡1枚のほか、仿製(日本製の大型内行花文鏡(直径約38センチ)なども含まれていた。銅鏡は初期ヤマト政権の権威の象徴で、大王墓クラスの古墳の全容に迫る成果として注目される。(3面にクローズアップ、27面に関連記事)09年1月からの再調査で、銅鏡の破片331点を新たに採取した。1949〜50年の調査などで見つかった



●桜井茶臼山古墳で見つかった三角縁神獸鏡の破片。「是」の文字が刻まれており、「正始元年」銘鏡の一部と分かった。奈良県橿原市の県立橿原考古学研究所で4日、森園道子撮影。●銅鏡の破片と同じ型で作られた蟹沢古墳(群馬県高崎市)出土の「正始元年」銘入り三角縁神獸鏡(一部欠けている)。黄色の部分破片と一致した。Image: T.NM Image Archives



いる破片と合わせ、計384点の文様などを他の古墳で出土した銅鏡と照合し、種類と枚数をほぼ特定した。

卑弥呼が魏からもらったとする説と国内製作説の両方がある三角縁神獸鏡が最も多く26枚。そのうち、破片の1点(縦1・7センチ、横1・4センチ)に刻まれていた「是」の文字の形が、過去に蟹沢古墳(群馬県高崎市)で出土した「正始元年」銘鏡と一致し、同じ鑄型で作られたと分かった。

三角縁神獸鏡は初期ヤマト政権が各地に配布したとする説が有力だが、これまで奈良県内では魏の年号入りの銅鏡は見つかっていなかった。また、国内最大のガラス製管玉(長さ8・16センチ)も新たに見つかった。

出土品は13〜31日、橿原市畝傍町の橿原研究博物館で展示される(月曜と19日は休館)。

【高島博之】

巨大垣根で「聖なる場」

丸太垣が出土した桜井茶臼山古墳。ピンク色の斜線の部分から柱列の痕跡が見つかった。中央部が石室の上部（3月7日、本社へりから）＝伊東広路撮影

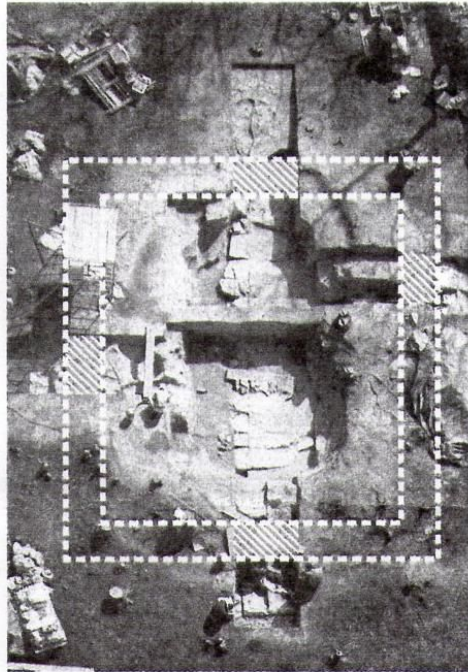
奈良県桜井市の前方後円墳、桜井茶臼山古墳（3世紀末～4世紀初め、全長200㍎）で、後円部中央にある長方形の土壇の周りに、垣根のような柱列「丸太垣」の痕跡が出土し、県立橿原考古学研究所が12日、発表した。高さ約2・6㍎の柱約150本がすきまなく立っていた

奈良・桜井茶臼山古墳

と推定される。土壇の地下には被葬者が埋葬された石室があり、周囲から遮蔽するのが目的らしい。同古墳の被葬者は大和王権初期の大王級とされ、同研究所は「類例のない構造。成立期の前方後円墳を研究する上で極めて重要な発見だ」としている。

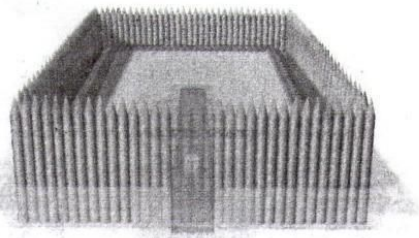
〈解説と関連記事36面〉

後円部に柱列150本？



同古墳中心部の発掘調査は1950年以來。以前に見つかった土壇は、東西9・2㍎、南北11・7㍎で、高さは1㍎未満と推定される。今回、その四方から深さ0・86～1・46㍎の溝が

見つかった。中に直径約30㍎の柱の痕跡が10本分あり、土壇の大きさや溝の深さから、柱の数や高さを推定した。また、溝に壺の破片や木を燃やした炭のかげらが見



土壇を囲んだとみられる丸太垣の想像図（奈良県立橿原考古学研究所提供）

つかった。壺は柱の近くの土壇上に並べられたらしい。同研究所は「石室を土で覆った後、火を使った葬送儀礼が営まれ、その後、高い柱で囲い込んで「聖なる空間」にした」とみる。同古墳の北西約3㍎には、邪馬台国の女王・卑弥呼の墓説がある箸墓古墳（3世紀後半）、南西約1・5㍎にメスリ山古墳（4

世紀前半）がある。メスリ山では同様の土壇を囲う2重の垣輪列が出土している。

現場は埋め戻されており、現地説明会は行わない。和田晴吾・立命館大教授（考古学）の話「築造時の墳頂部の様子を知る成果となった。古墳がどういった意図で造られたかを思想的、宗教的に迫る材料になる」